

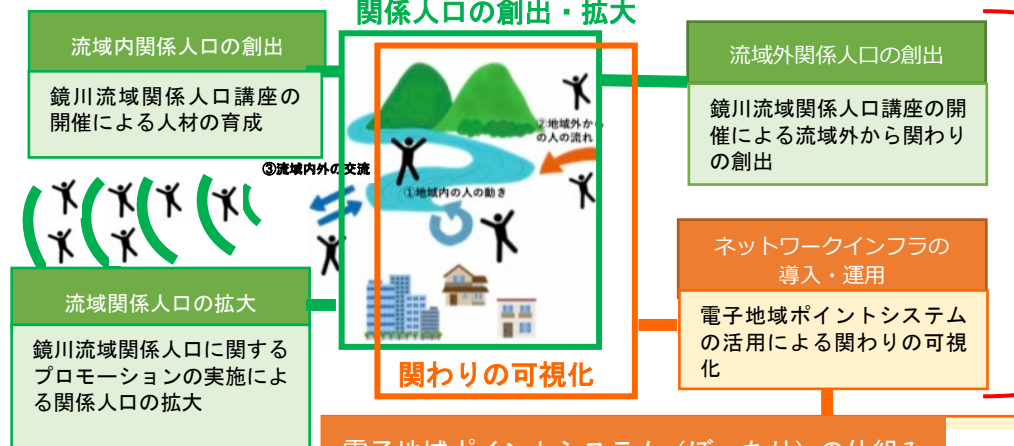
## 推薦調書（実装部門）

表彰区分	「指定都市・中核市・施行時特例市等」	推薦都道府県	高知県
地方公共団体名	高知市		
取組名称	電子地域ポイントシステムを活用した鏡川清流保全		
連携自治体、企業、団体等			
デジタルを活用した取組の概要（デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	(種類)	①	(左記が①の場合の分野) 教育(講座)
	<p><b>【デジタルを活用した取組の全体概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鏡川流域の「自然と人」, 「人と人」をつなぐ関係人口の創出・拡大を促進するため, 流域の自然を生かした多様な関わり方を実行できる人材を育成する鏡川流域関係人口講座を実施。併せて, 流域への関わりを可視化し, 市民等が気軽に関わるためのコミュニティツールとなる電子地域ポイントシステムを導入。電子地域ポイントシステム「まちのコイン」(スマホアプリ)では, 講座の受講生や地域の団体(店舗, 施設, 地域団体, 事業等)が「スポット」となり, 「お手伝いごと」や「体験できること」を電子地域ポイントの「チケット」として作成し, 相互に地域ポイント「ぼっちり」を貯めたり使ったりしながら関係人口を広げる。</li> </ul> <p><b>【実施に至る経緯・動機】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鏡川上流域では, 様々な分野での担い手不足から, 人による自然への適切な関わりが薄れ, 流域の美しい景観や自然環境が失われつつある。こうした課題に対応するため, 鏡川流域の自然と人, 人と人をつなぐ「関係人口」の創出・拡大を図る施策を講じることとした。</li> </ul> <p><b>【解決する課題の具体的内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鏡川流域での「不足していること」や「提供できること」を可視化することで, 多様な人材の参加と関わりを促進する。このことにより, 鏡川流域の自然と人, 人と人をつなぐ「関係人口」の活動が促進され, 流域の美しい景観や自然環境の保全につながる。</li> </ul>		
デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）	<p>令和4年2月1日から鏡川流域関係人口講座の受講生に限定した試験運用を行い, 令和4年4月より広く市民に対する利用の呼びかけを開始したところであり, 今後さらなる利用拡大が期待される。</p> <p><b>【取組のアウトプット成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ登録者数: 242人 (R4.5.19現在)</li> <li>スポット数: 47スポット (R4.5.19現在)</li> <li>累計チケット数: 71件 (R4.5.19現在)</li> </ul> <p><b>【取組のアウトカム成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>累計チケット使用回数: 233回 (R4.5.19現在)</li> </ul>		

<p>本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本取組は、鏡川を軸に、上流域と下流域、流域内と流域外の人材をつなぎ、関わりを生む場（鏡川流域関係人口講座）の設置と関わりを可視化するツール（電子地域ポイントシステム）の整備を一体的に行うことで、地域資源の相互連携・相互作用を促進し、鏡川流域における地域循環共生圏の実現を目指すものである。</li> <li>・ 電子地域ポイントシステムを活用し、流域への関わり方を具体的に可視化することで、環境問題やSDGsへの市民の関心の高まり、新たな「チケット」の提案などの循環を生み出すことを意識した。</li> <li>・ 電子地域通貨等においては、換金性のあるものが多いが、本取組では、誰もが気軽に使うことが出来るようにするため、換金性がなく、値引きや支払いとしての利用は行わない電子地域ポイントシステムを活用している。</li> <li>・ チケットの内容は楽しい体験を無償提供できる範囲とし、商業的な利用ではなく多様な主体の参加と関わりによる関係人口の創出に主眼を置いている。</li> <li>・ 電子地域ポイントシステムの導入と併せて実施した鏡川流域関係人口講座の受講生に対し、受講生が「スポット」となり、企画したプロジェクトを具現化するためのツールとして電子地域ポイントシステムを活用するよう促すことで、プロジェクトの促進や効果的な電子地域ポイントシステムの活用につなげている。また、試験運用期間中に受講生がシステムの活用事例を作ることで、本格導入後に他の団体等が「スポット」となり、「チケット」を生み出しやすい環境を整えた。</li> </ul>
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域団体や学生等へ周知することで、「スポット」の拡大や「チケット」の増加を図る。</li> <li>・ 今後開催予定の鏡川流域関係人口講座においても、受講生が電子地域ポイントシステムを積極的に活用することで、システムの利用促進につなげていく。</li> <li>・ 現在高知市が担っている電子地域システムの運営団体の役割を他の団体に移管することで、電子地域ポイントシステムの新たな活用方法の開拓や「スポット」の拡大につなげる。</li> </ul>

# 「鏡川流域保全に向けた電子地域ポイントシステム（ぼっちり）」概要図

## ＜鏡川流域関係人口を創出するための取組概要＞



## ＜目指す鏡川流域の姿＞



## 電子地域ポイントシステム（ぼっちり）の仕組み

